

令和5年度 神戸大学「異分野共創による次世代卓越博士人材育成プロジェクト」 募集要項

令和3年度に国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）事業に「異分野共創による次世代卓越博士人材育成プロジェクト」として採択されました。全学の博士課程後期課程（博士課程）学生を対象に本プロジェクト生を募集します。

1. 目的

異分野共創による次世代卓越博士人材育成プロジェクトでは、本学の博士課程後期課程に在学する様々な分野の博士学生を数理・データサイエンスの素養を持ち、グローバルに学際領域で活躍できる卓越博士人材を育成し、トランスファラブルな素養を身につけさせる教育・研究を通して、社会に求められる高度専門人材の育成を目指します。

2. 支援内容

本プロジェクトに選ばれたものは研究専念支援金および研究費を支給します。また、研究力向上のための機会を与え、さらに、キャリアパス支援を行うため、神戸大学博士学生支援総合パッケージとして別紙1に示す支援プログラムを提供します。

支援金および研究費

研究専念支援金 200万円/年

研究費 20万円/年+追加研究費

・追加研究費は、申請内容ならび予算額の査定を行い、研究費や海外派遣費を支給する

3. 期間

令和5年4月1日から修了年月まで（ただし、標準修了年限を超えることはできない）

4. 募集人数

合計55人程度（2年生は数名程度）

5. 対象とする研究科

神戸大学の全研究科

6. 応募資格

以下の1)、2)、3)、4)の全てに該当する者

- 1) 申請時に大学院博士課程前期課程在学者もしくは修了者
- 2) 以下のいずれかに該当する者
 - (a) 令和5年4月1日時点で本学大学院博士課程後期課程1年生の者(見込み含む)
 - (b) 令和5年10月1日時点で本学大学院博士課程後期課程入学(進学)見込みの者
 - (c) 令和5年4月1日時点で本学大学院博士課程後期課程2年生の者
- 3) 標準修了年限以内に学位取得が見込める者
- 4) 本プロジェクトの予算管理が行える研究室に所属する者

ただし、申請時点で以下のいずれかに該当する学生は申請することができない。

- ・標準修了年限を超えて在学している学生、
- ・日本学術振興会の特別研究員(内定者含む)、国費外国人留学生制度による支援を受ける留学

- 生、本国からの奨学金等の支援を受ける留学生
- ・神戸大学博士学生フェロー（内定者含む）
 - ・所属する企業等から、生活費相当額として十分な水準（240万円／年以上）で、給与・役員報酬等の安定的な収入を得ていると認められる学生（ただし、アルバイトや非常勤など不安定な収入を得ている者の応募は可能）

7. 申請方法

- 1) 申請締切：令和5年2月27日（月）正午
- 2) 指定の様式1、様式2を使用し申請書を作成し、担当教員の同意を得た上で、様式1はexcelのまま、様式2はPDFファイルに変換し、電子ファイルの添付ファイルとして、以下の担当部署に提出すること
 - ※送付する際はファイルサイズを合計2MB以下にすること
 - ※様式2の2～4は英語での記述も可

担当部署：神戸大学大学院博士支援推進室

提出先メールアドレス：crct-hakase@edu.kobe-u.ac.jp

件名：R5 異分野共創による次世代卓越博士人材育成プログラム申請

8. 選考方法

- ・本プロジェクトの運営委員会で候補者を決定する
- ・選考は、申請資料の様式1、2と別紙2の審査項目とを照らし合わせ評価する
- ・各選考過程で必要に応じて面接を行うことがある
- ・選考結果は令和5年3月下旬頃にキャリアセンターホームページに掲載する

9. 支給対象学生の義務

- 1) 1年ごとに研究の進捗状況報告書を提出すること。なお、後期課程修了年については学位論文をもって報告書とすることができる
- 2) 博士学生支援総合パッケージ（別紙1）のプログラムに積極的に参加し、1年間に授業科目2単位（1単位は45時間の学習）相当分のプログラムに参加すること。特に、異分野共創研究発表会で1回以上の発表は必須とする。ただし、本パッケージで提供するプログラムは正規の授業科目ではない場合がある。
- 3) 修了までの期間内に本プロジェクトで指定する数理・データサイエンス教育プログラム（別紙3）を受講すること。なお、このプログラムも、2)の単位数に含めることができる。
- 4) 研究成果は学術論文や学会発表を通して積極的に発信すること
- 5) 運営委員会が指定する行事に参加すること
- 6) 修了後10年間はキャリアに関する追跡調査などの各種調査に協力すること

※ただし、ここに示した単位数やパッケージ名などは変更となる可能性があります。

10. 支援の取消

以下の条件に当てはまる場合はプロジェクト生の資格を取り消す場合があります。

- 1) 応募資格を満たさなくなった場合
- 2) 研究計画の遂行状況または支給対象学生としての義務の履行状況が不十分と認められる場合
- 3) 本人から辞退の申し出があった場合
- 4) その他学長もしくは本プロジェクトの運営委員会が取り消すべき事由があると判断した場合

11. 注意事項

- ・研究専念支援金は雑所得として課税対象となり所得税に関する確定申告が必要
- ・研究活動に支障がない範囲の TA やアルバイトの賃金、学会からの学術賞等の賞金、有償のインターンシップの報酬を受けることは可能
- ・本プロジェクトに選ばれたものは、本学ホームページに氏名を公表する

12. 問い合わせ先

神戸大学大学院博士支援推進室 TEL:078-803-5217

メールアドレス : crct-hakase@edu.kobe-u.ac.jp

(別紙1)

異分野共創による次世代卓越博士人材育成プロジェクト
神戸大学博士学生支援総合パッケージ

A 教育支援

- A-1 数理・データサイエンス教育プログラム
- A-2 大学院異分野共創型教育プログラム
- A-3 医工融合プログラム
- A-4 研究グローバル展開力育成コース

B 研究支援

- B-1 全学センター主催研究会
- B-2 異分野共創研究発表会
- B-3 大型施設利用プログラム
- B-4 神戸大学プレミアム・プログラム
- B-5 若手研究者グラント獲得支援

C キャリア支援

- C-1 中長期インターンシップパッケージ
- C-2 博士人材と企業の交流会
- C-3 若手研究者による個別ヒアリング
- C-4 大学教員育成プログラム

(別紙2)

異分野共創による次世代卓越博士人材育成プロジェクト
審査項目と内容

審査項目	内容
研究実績	将来性を期待させる研究実績があるか
研究の位置づけ	研究課題の設定に至る背景が示されており、かつ、その着想が優れているか
研究目的・内容等	研究目的、研究方法、研究内容が具体的に示されており、研究の方法にオリジナリティがあり、自身の研究課題の今後の展望が示されているか
研究遂行力	「研究に関する自身の強み」、及び「更なる発展のため必要と考えている要素」が具体的に示されており、研究遂行力の自己分析が十分にできているか。また、学術の将来を担う優れた研究者となることが十分期待できるか
数理・データサイエンス	数理・データサイエンスの素養を身につけようとする強い意思があるか
異分野共創型研究への展開	研究計画もしくは将来計画で、異分野共創型研究への展開を期待させる内容が含まれているか
挑戦的研究への展開	研究計画もしくは将来計画で、挑戦的研究への展開を期待させる内容が含まれているか
新規研究分野の開拓	現在の専門分野だけでなく、新たな研究分野への展開など、新規研究分野の開拓に意欲的か
社会課題解決能力	社会的な課題に目を向け、博士課程での研究を通して、それらを解決する能力を身に着けることが期待できるか

(別紙 3)

数理・データサイエンス教育プログラム

主に本学の数理・データサイエンスセンターが提供予定のプログラムの中から2単位以上のプログラムを受講してください。参考までに令和4年度に開講されたプログラムは以下となります。研究科によっては、正規の単位科目でないこともあります。

科目名	単位数	内容
データサイエンス特論 1	1	データサイエンス特論 1 では、データサイエンスの基礎である人工知能・機械学習の技術的側面について学び、データサイエンス特論 2 では、人工知能技術のユーザ側の企業と、技術提供企業（シーズ側企業）の事例報告を基に、データサイエンスの実質的応用について課題解決型ワークショップを行う
データサイエンス特論 2	1	
実践データ科学演習 A	1	神戸市から、実際の課題と関連する可能性のあるデータの提供を受け、データ解析・分析による課題の設定と解決を目指したグループワークによる P B L (Project Based Learning) を行う
実践データ科学演習 B	1	兵庫県から、実際の課題と関連する可能性のあるデータの提供を受け、データ解析・分析による課題の設定と解決を目指したグループワークによる P B L (Project Based Learning) を行う
データサイエンスコンテスト型 PBL 実習	1	データサイエンスコンテストを模した PBL(Project Based Learning) 実習を通して、Python を用いたデータの取り扱い方、分類問題・回帰問題に対する手法を実践的に学ぶ
オープンイノベーションワークショップ (工学)	1	アルゴリズム・データ構造、サイバーセキュリティ、情報通信ネットワーク、人工知能などの情報システム工学の基礎技術が、実際の金融ビジネスの中でどのように活用されており、深い関係を持っているかをグループワークによる PBL(Project Based Learning) を通して学ぶ